

## サークル紹介

### 学習集団大阪サークル「ペロ出しチョンマ」の教材解釈

C：それじゃ、はじめさせていただきます。今年から大阪のサークル、または他のサークル、来年はよそのサークルだと思っただけですけども、順番に紹介していこうということになったみたいです。それで、大阪はどうしようかなあと考えまして、一人で「こんなんやってますねん」ってしゃべってもおもしろいやろうと。それよりも実際にやっていることをこの場でやったらどうやろ、ということで今日はやってみようとおもいます。私は今日、司会をやらせてもらいます、大阪の代表のCです。よろしくお願いします。この会をちょっと紹介させてもらいますと、月に1回、この会場に来まして、勉強会をしております。中身はどんなのかといいますと、一つは学級の悩んでいること、それからAちゃん、Bちゃんをどないしたらいいやろということなどを中心にやっております。二つ目としましては、教材研究ですね。大体この教材研究は半年かけて1本やっております。だから今日やろうとっております「ペロ出しチョンマ」につきましては、前回20分ほどでしたけども、どんなところがわからんのやろ、どこから調べようかなということ、ここの黒板に挙げてもらってるんですけども、・・・ちょっと小さいですか。ちょっと読んでみましようか。

- ・この話は再話なのか、斉藤隆介がつくったものなのか。この話はいつの話なのか。
- ・お手元に教材があると思うんですけども、1の場面のところ、千葉県の花輪村はどこにあるのか、今の地名は？ペロ出しチョンマはどんな人形か、実際にあるのか。
- ・2の場面で、季節と時期はいつなのか、この当時のしもやけの治療法は？父ちゃんも母ちゃんも忙しかったとあるが、なにに忙しかったのか。
- ・3の場面に入りますと、油薬ってどんな薬か、年貢のカタカナの意味は、逃散とはどんな意味か、強訴とは？牢屋のカタカナの意味は？
- ・4の場面で、おじさん達も誰も来なくなったということは、父ちゃんと一緒にいったのか？父ちゃんは何をしたのか？父ちゃんはどこで捕まったのか、名主の暮らしは、どんな立場なのか、木下籐五郎とあるということは、身分は？母ちゃんが「知っていました・・・」とうそを付かないで正直に答えているのはどうして？
- ・5の場面で、長松は刑場ではじめて父ちゃんを見たとあるがどうして？同じような白い着物を着せられてというのはどうして？とっても優しい目だったのはどうしてか。竹矢来とは？刑場の様子を村人に見せることは意味があるのか、役人のねらいとはなにか、どうして子どもまで殺すのか、突き役の非人とは？長松は自分もこわいのにならしてペロを出したのか？村人が泣きながら笑った、笑いながら泣いたのはどうして？小さな社を建てるのはどうして？処刑の日が1日というきりのいい日に行われていたのか、小さな社と花輪村の木本神社の関係は？

というようなことが、前回の20分間で、みんながいいあったものです。これを今日はどれだけ調べてきたか、というのを出示してもらいたいなと思ってるんです。

ここにいるのは、もちろん大阪サークルの一部分だけです。事務の仕事もあるので、フロアの先生も意見を出していただきたいんです。私の独断と偏見で進めてまとめていきますので、おかしいことはおかしいと言って欲しいんです。これを半年かけてやるといってましたので、半年かけて指導案づくりまでもっていきたいと思っていますので、一つ協力をお願いしたいと思います。今日はみんながどんなことを調べてきたのか、ちょっと聞いてみたいと思います。地区名と、調べてきたこと、例えば人形について調べてきたのなら「人形」と一言だけ言ってもらえますか。

A：東大阪市内の小学校に勤めるAです。「ペロ出しチョンマ」の教材研究はちょっとしかしてないんですけども、私が気になったのは一番最後の方の「小さな社を建てるのは、誰が何のために、ということが気になっていたの、調べたんです。

B：同じく東大阪市内の小学校に勤めるBといいます。私はこの「ペロ出しチョンマ」の人形が気になったんですが、調べているうちにないのはわかったのですがそれに似たものを見つけたので、持ってきました。あと、その時代も気になったので、時代についても少し調べてきました。

D：四条畷市内の小学校に勤めるDです。私は千葉の佐倉宗吾っていう人がいるっていうのを調べたので、実際に行ってみて、と気になる話と人形があったので持ってきました。

E：大阪市内の保育所に勤めるEです。私は作者のことと時代背景を少し調べてきました。

F：7月まで大東市内の小学校にいましたFです。私はこの花輪村っていうのが本当にあるのかなっていうのと、作者について調べました。

G：枚方市内の小学校に勤めるGです。民話か創作かっていう点と、時代背景と、この時代のはりつけのやり方を研究して参りました。

H：枚方市内の小学校に勤めるHです。私もはりつけとかその当時の死罪について調べたのと、役人の処刑するときの様子を調べてきました。

I：枚方市内の小学校に勤めるIです。私は花輪村っていう村と、佐倉惣五郎について調べてきました。

J：東大阪市内の小学校に勤めるJです。最初におもちゃは本当にあるのかとか、花輪村はどこなのかとかを調べてたんですが、結局それも全部作り話ということでちょっとがっかりしました。

K：東大阪市内の小学校に勤めるKと申します。齋藤隆介さんの、多分創作民話だと思うんですけども、考え方について、それから「はぐるま」でペロ出しチョンマを取り上げてみたいなので、はぐるままでの教材解釈を調べてきました。

L：岸和田市内の小学校のLといいます。私はこの時代の名主という、木本藤五郎の身分ですけども、これについて調べてきました。

- M：大東市内の小学校のMと申します。ぼくは、人形のこと、佐倉惣五郎のこと、とりわけ齋藤隆介の談話みたいなのがありましたので、作者がどういう気持ちで、というかどういう意図でこの物語を書いたか、ということを中心に調べてきました。
- N：美原町内の小学校のNです。私は木本藤五郎と佐倉惣五郎、木内惣五郎っていうんですけども、なんか似てるようで似てないようなどうかなっていうのと、後、この時代の一揆について調べてきました。
- C：そういう感じで調べてくれたみたいですが、それではあてます。今、みんなが調べてきた中で、ちょっと引っかかる点があったんですが、創作か、それとも実際にあった話か、っていう点なんですけど、創作って決めつけてる人もいるみたいなんですけど、その辺は創作っていった人、どうですか。
- M：作者本人がしゃべってる言葉ですが、まあ、創作なんですけど、ただ「僕のペロ出しチョンマという短編の時に頭に置いたのは、佐倉惣五郎というひとですけれども」ということで、歌舞伎か何かのようですが、それを頭においてみたいですね。
- G：僕も齋藤隆介自身がいつてることとか、齋藤隆介について西郷竹彦がいつていることを図書館で調べてきたんですが「創作か民話か」というタイトルで、西郷さんが「八郎」もそうだし「三コ」もそうなんだけど、「八郎」なんかは民話みたいに思われてるけども、創作だ、と。この「ペロ出しチョンマ」についても、先ほどから出てます、佐倉惣五郎という人があるけども、それは創作だ、と。だから「ペロ出しチョンマ」っていう本がある中の、これはみんな創作民話っていうことで書かれてるっていうことで、だから調べた結果創作だった。ただし、もともとあった話から作り替えていて、名前ももちろん変えている。
- C：ということは、まったく自分勝手に作ったんじゃないって、どこかにあった話を利用したということ？
- G：この本はプロローグとかエピローグがあって、その間に「八郎」とか「三コ」とかがあって、実は全部読んだことがなくて、部分的には知ってたんだけども、最後のエピローグなんかは、全然民話的じゃない。自分の恋した人のこととか、実際の人とだぶらせて書いていてね、全部が全部創作民話的に書かれていないんです。「ペロ出しチョンマ」については、創作的民話なんじゃないかな。
- C：どこかに元になる話があったということやね。そこから名前が出てきてんのかな。さっきこれもちょっとひっかかったんやけど、佐倉惣五郎っていった人と佐倉宗吾っていった人とあるんだけど、このへんはどうなのかな？二人もおったのかな？
- I：家の名前は木内らしいんだけど、今もその人物のお姉さんが、実際に佐倉惣五郎っていうひとが強訴を起こした以前に、もう嫁いでいた人がいるらしいんだけど、その人が以前住んでいたとこ

ろに戻っていて、16代目ぐらいの人がいると記録には載っているんだけど、家も残っているらしいんだけど、家の名前は木内らしいけど、後に伝えられる中で、佐倉藩の惣五郎さんという意味で佐倉惣五郎っていわれたり、読本とか、歌舞伎の題材の中で佐倉宗吾というふうな呼び名が何通りかあるみたいです。もとは木内姓で惣五郎っていう名前だったというのが「名寄帳」という当時の記録にあるんですが、その「名寄帳」自体が後から作ったのではという説もあって、若干どれぐらい佐倉惣五郎っていう人が実際にいたかどうかというのは、両方の説があるようです。

C : いたことはいたんだね。

I : そのようです。

D : 実際にいたみたいなんですけども、記念堂っていうのがあって実際に行ってきたのですが「佐倉惣五郎伝」っていう本が100円で売っていたので、買ってきて、みなさんに印刷してあります。実際のその藩主っていうか名主であったというので、ペロ出しチョンマに似た話が載っています。目を通して下さい。

C : 実際に千葉県へ行ってきはったみたいなんですけども。

D : 成田市っていうところがあるのですが、国立博物館などがあるところで、記念堂がありました。

C : じゃあ現在は成田市になっているということだね。もうちょっとききたいんだけど、その佐倉惣五郎っていう人は何をした人なの？

N : 佐倉惣五郎っていう人を調べたときに、なぜこの人が一揆を起こしたのかよくわからなかったんですけども、藩の年貢が重くて、この後佐倉騒動になって年貢がちょっとまけられたというようなことを聞きました。それで、話が戻るのですが、この話の中に、逃散・打ちこわし・直訴とかいう一揆のパターンが全部出ていて、打ちこわしっていうのがどの時代だろうと思って調べてみると、一揆も江戸時代の初め、真ん中、終わりにわかれていて、打ちこわしは真ん中から後、だいたい千七百十何年頃からなんだそうです。佐倉惣五郎の一揆は1652年、資料によっては1653年ともいわれているんですが、そうすると佐倉惣五郎の話をそのまま書いているんじゃないな、ということで、一応創作じゃないかな、と。

I : 物語として伝えられているようなんですけども、いくつかある中で、一番まとまった話といわれているのに「地藏堂通夜物語」っていうのがあって、その話では、その地域の名主の中の相談役で、そこにいる農民の中でも一、二の立場をあらそう人だったようです。農民達の年貢に苦しむ様子を伝えるのに、いろんなステップがあったようで、まず最初に江戸の藩邸に名主が何人が集まって訴えてた様だけれども取り上げてもらえなくて、その後老中に直接「駕籠訴」っていうのを一同で行っても効果がなかったのが、最終的に佐倉惣五郎一人が江戸に残って将軍に直接「直訴」を行った。その結果直訴の訴状が佐倉藩主の方に回されたために、結果として年貢の率が下がっ

たということが事実として残っているようです。藩主にしたら恥をかかされた、ということで惣五郎とその一家、これも若干違う説があるんだけど、妻と4人の子どもが同罪としてはりりつけの刑になった。説によると妻は子どもと惣五郎の墓を守るために、寺に入ったみたいな説もあるようです。

I : その辺ははっきりしていないわけだね。話と違うのは2人の子どもといわれているのが、実際は4人。そこで名主というのが出てきたのだけれど名主って何？

L : 名主とは、農民の一つの身分としてあって、この辺では庄屋。場所によっては、肝煎りっていう言い方をしている、そもそもの始まりは豊臣秀吉の時代から本格的に支配体制の中で、江戸幕府の中で位置づけられてきた、ということで、主な役割としては、農民と、当時の支配層である武士とのつなぎ役的なところで、詳しくいいますと領主から年貢や労働の命令を受けて、住んでいる領地の農民達にそういうことをやらせたり、逆に農民達の声を領主に伝えるというような役割もあったようです。そしてこの話とも関連してくるのかなと思いますが、もし凶作等で年貢が思うように取れない、その当時の年貢というのがその土地の中でどれだけ、というふうに割り当てられていて。ある人の田圃で取れないという場合には、その人のために年貢を肩代わりして納めるという、ちょっと中間管理職的に似た苦しいような一面もあったようです。

C : というような人が、一揆や直訴を起こさなければならない状況になってくるの？本来なら逆やな。百姓が起こしたのならわかるけど。

H : 関係あるかどうかわからないけども、佐倉惣五郎が一揆を起こしたときの少し前に「慶安の御触書」が出た。例えば、お茶を飲むな、とか雑穀を食べて米は食うなとか。それは一斉に出たわけじゃなくて、千葉県はちょっと遅れたみたいなんだけど、それと共に農民が苦しくなっていたというのがあんじゃないかな。どっちかという佐倉惣五郎という人は、体制側につく人じゃなくて農民側につく人だった。

C : そういう人だからこそ、こうして話が残っているということにもなるんだね。ところでちょっとこれも気になったんだけど、1652年っていったら、江戸時代だね。江戸時代の將軍さんは誰だったのかな。4代、家綱の時代ですか。ここの藩主は、佐倉って出てるんですが、誰ですか。

I : この少し前に3代將軍家光が亡くなって、それに殉死する形でここの藩主が自殺した、っていう話が残っているらしいんですけども、後を継いだのが、堀田正信という方です。

C : 普通直訴したら、直接持っていった人も処分を受けるけど、殿様も処分を受けるはずだ。なんでここは受けなかった？・・あ、受けてますか。すぐに？ふつうだったら家お取りつぶしとかなるのでは？

E : 1660年に廃役となり、領地が没収されたっということが書かれています。

C : じゃあ、すぐに廃役にならなかったというのは幕府の中でも力が強かったということかな。でも

1660年に廃役になったのは、この事件と関係ないと思うんだけど。誰か調べている人いませんか？

- B：1653年に処刑された後、子どもが殺されたので、崇ってやるというて惣五郎が死んでいる、といわれています。それで鳥居を立てているんですけども、1660年に異常な行動をとって、自害をしている、というのもあるんです。それもあって、解役になったみたいですよ。
- J：最後の所に「小さな社が建った」っていうところで、私も「地藏堂通夜物語」が何かで読んだのですが、私は社は民衆が立てていると思ってたんですが、家に崇りとかいいことが起らなくなって、最終的には権力者の方が立てた、と書いてありました。
- C：ちょっと社の方にもいきましょうか。これは本当かどうかわからないけども、幽霊が出て、堀田が気がふれた、みたいなこともあるみたいですね。ただそれが原因かどうかわかりませんけども。その後、社のお話が出て、教材の中身の方に触れていきたいと思うんですが。「長松親子が殺された刑場の後には、小さな社がたつた。役人がいくら壊してもいつかまたたつてた。そして命日にあたる一日には縁日がたつて、ベロだしチョンマの人形が売られ親たちは子ども達に買ってやった。」というところがあるんですけども、あこの社ってどこなんですか。さっきあったとかなかったとかいってましたが。これを読むと、「たつた」とか「たつてた」とか「買ってやった」とか書いてあるんだから、あるんじゃないの？社を調べた人はいませんか。
- I：社ですけども、惣五郎のお墓として奉られているところが、「宗吾霊堂」というのがあって、それとはまた別に、堀田正信自身か、その何代か後の藩主が立てた石の鳥居があるってよんだんですが、それを資料として今持っていないで、誰か調べていませんか。
- B：佐倉市駅の東南約1キロのところに平将門の城址といわれるものがあり、その西南方に将門山大明神がある。またの名を、くちのみや明神という、とありまして、堀田正信の弟に当たる人の子孫のまさすけという人が100年後くらいに立てた、といわれているようです。これも佐倉氏が解役になってまた戻されてきた時に崇りをすごく恐れて立てたものではないかと書かれていました。
- P：今C先生が、この小さな社があったかどうかということの問題にされていますが、この一番最後の場面で大切なのは、これでいいんでしょうか。私はそうは思わない。最初出ました、これが再話創作か、ということも出ましたが、私はここでいいたいのは、壊しても壊してもまたたつ、そして親たちは縁日の日には子どもに買ってやっておる、この言葉、そしてもう一つ千葉の花輪村の木本神社の縁日では、今でも、というこの言葉、こちらの方が、ポイントになるんじゃないかと思います。どうでしょうか。
- C：その通りだとおもいます。ただ、6ヶ月かかってやりますので、今日やっているのはこの教材のついて、いろんなことを調べて、そして発問や中身のことに入りたいと、うわべだけで入りたく

ないなと思って、今日やってるんです。読んだ時に、先生方が疑問に思われたのは「本当に社があるんだろうか」と思われたんじゃないかなと思うんです。そこをはっきりさせておかなければいけないなと思ってやってるんですけど。もちろんP先生がおっしゃっているのはその通りで、そのための前をやってるんです。それでは社はもういいんですか。木本神社、それからお墓の方は、唐勝寺ですか、というところに、宗吾、惣五郎のお墓が実際にあるということです。もう一つ、縁日には人形が売っているって書いてありますが、その人形は本当に売っているのかどうか。それで実際に成田までいった人・・・ちょっと。

D：霊堂のあるところのお土産屋さんで、ベロだしチョンマの本と一緒に売っているんですが、礼堂の方はベロ出しチョンマと惣五郎は関係ないとはっきりいわれました。

C：その当時の人形ではないということですね。

B：ベロ出しチョンマではなかったんですが、江戸時代のおもちゃでそんなのはなかったんだろうか、と思って探してみると、ほうかぶりといううちわの形をしたお人形があったんです。関係ないかも知れないのですが、江戸時代のおもちゃ図鑑、名前をちょっと忘れたんですが、それに載っていて、この人形が出たのが1751年以降にこの人形が出ているということです。この人形はうちわに顔をかいていて、舌を出すようにしかけておいて、絵の中にある棒を引くと舌を出したり引っ込めたりするという人形らしいんです。時代的に似ていたので、関係あるかないかはおいといて、まあこんなものもありますというのでもってきました。

M：作者の話によるとですね、歌舞伎が全国に伝えられたときに「ベロ出しチョンマ」を書いて全国の人に読まれて手紙が来る、と。「今もベロ出しチョンマという人形が売られている」と書いたら「その人形をおくってくれ」という手紙がしょっちゅう来るので困っている。あんなもの何もないのでいつも送り返すんですよっていつているので、ないらしいです。

C：後に商売として作ったみたいですね。そして学校の先生の間い合わせが意外と多いということから商売になったんでしょうね。だから初めにいつていたように、やっぱりこの部分は創作ですね。さあそれでは中身にどんどん入っていきましょうか。この前の時にも出ていたけど、カタカナ、というのが出ていたね。これはあっちこっちに疑問に思われた方が多いと思うんですが、カタカナで書かれてある部分が多いですね。これは何ででしょうね。なぜひらがなで書かないで。

I：自分の中でも十分整理がついていないんだけど、考えられることとして、ひらがなの中にカタカナがあると、目立つ。視覚的に見て、ポイントになる言葉が多いのかなってというのが一つ。これは一貫していないかもしれないんだけど、子どもの立場から聞いたり見たりしているというのが印象として、カタカナを使うことで、長松は12才なので、そんなに小さい子どもではないので、カタカナのイメージに合わないような気もするんだけど、そういう効果をねらってるのかなと。漢字で書くと、大人が感じた言葉のイメージととられやすいと思うんだけど、それをカタカナで

書くことによって、子どもから見ているみたいなのがあるのかな、という。

C : そのあたりどうですか。

A : 思いつきなんですけど、カタカナで書いているのは、武士・役人の方で、逃散とか強訴とかは、自分たちの立場・農民側の立場というふうには、子どもが感じているのかなという気がしました。

C : ここで正しいというのはやめましょうね。もっとどんどん出して。フロアーの先生からでも何かありませんか。

O : 関東の方は「ベロ」っていう言葉は使わないのではないですか？

Q : そういわれれば、関東の方では「舌」とつかって、あまり「ベロ」っていうのは使いませんね。

C : 「ベロ」も「チョンマ」もカタカナなんですけど、ひっかかるんですけど「ベロ」はどうですか？

M : おっしゃる通りかなと思うんですけど、鳥越という児童文学評論家が、これの解説をしているところに、やっぱり「ベロ」と書いて、かっこして「舌」と解説していますので標準語じゃないのかも知れません。

C : でもこれを書いた齋藤隆介というひとは東京の人では？だから東京でも使われているのでは？

J : 東京に生まれました、とだけ書いてます。

I : 齋藤隆介がどこ生まれかっていうのと、題名にカタカナを使っているっていうのは関係なくて、やっぱりカタカナに意味があると思うんですけど、舌を「ベロ」というの「ベロ」と、舌を出すときの様子の「ベロッと出す」のベロとかけているのかなと。

C : ベロッと出す、なら東京の方でもいうのかもしれないね。

I : 「ベロッと舌を出す」と書いてあって「ベロッとベロを出す」とは書いていない。

C : チョンマって何かな。長松だから・・・チョンマってきいたらどんな感じ？

B : チョンギレルっているか、尻切れとんぼみたいな。この子はあんまり、ぼーっとした子なんかかなと思っていたら、読めば読むほどいい子なので・・・???

C : そうだよな。ベロだし長松っていえばいいのに、チョンマっておどけたみたいね、おちよくったみたい

R : ベロのことは高知でもベロっていいです。それでなくて、カタカナのことですけど、わたしが読む限りでは、様子とか形態がこの文章の文字づらから受け取れるのではなくて、耳からの音として強烈に入ってくる、そういう印象を受けます。そういう意味でカタカナが使われているんじゃないかなと思いました。

C : やはりひらがなではなくてカタカナの方がわれわれにワッと入ってくるものだと。ていうことを先ほどIさんも言ってくれました。

G : 4ページ5ページ見ていたら、年貢と牢屋と納戸はよくわからないけど、はりつけ場所とか、体制側のがカタカナになってると先ほど言われたのをなるほどなあ、と思ったんだけど、確かに逃



散とか直訴とかはひらがなで、年貢とか牢屋には意味があると思う。

C : 今日はやってる時間がないので、今度ちょっと分けましょうか。カタカナ、ひらがな、漢字で使われているのはどんなので、なぜかというのを考えましょう。宿題。いっぺんに5の所に飛びますが「長松は刑場ではじめて父ちゃんをみた」と、このはじめてって変じゃないかって前に出てたんだけど、なぜ「はじめて」って使ってるんでしょう。フロアーも参加していただけますか？私たちの教材解釈は、これが正しいと思ってやっているわけではないのです。いろんな解釈がある、いろんな話を知っておかなければならない、と行ってやっているわけです。いきなり主題は何か、と決めるのはやめよう、と。

N : 答えにならないなと思って調べてたんですけども、佐倉惣五郎の場合は、江戸屋敷へ行ったのが11月17日、そして実際に処刑されたのが命日が9月2日ってなっていたので、一説には3日というのがありますが、かなり日にちがたっている。この話の中では、何日かたって、みたいになっていますが、実際には日にちがたっている。その中で長松の生活も随分変わっているだろうし、そういう意味で、また新たに、として「はじめて」ってなっているのかなと思ったんですが。

C : 時間がたっていることが文章からわかるころはありますか？

M : そして何日もたったある晩・・

C : 何日もってというのは、Mさんは何日ぐらいと考えているの？

N : うーん・・

J : 直接関係あるかどうかわかりませんが「父ちゃんのヒゲがぼうぼう」って書いているから、時間的にはけっこうたっているかな。

C : ヒゲが伸びてる、じゃなくて、ぼうぼうだから、そこからも久しぶりにあったって、わかるかな。それで「はじめて」って言う言葉を使ってるって田村さんも言ってたのかな。・・・

C : 時代劇なんかみても、処刑の人が白い着物を着せられて、馬に乗せられて引っ張っていかれるところをみますね。

I : 僕の個人的なイメージでは、侍・武士層が腹切ったりするときには、白い着物っていうイメージがあるんだけど、武士以外の農民層が処刑されるときに、白い着物っていうイメージがないんですが。長い間牢につかがれていても、処刑のために白い着物を出すっていうのは特別な意味合いをもたそうとしているような気がします。

C : おもしろいことを言い出しましたが、農民が処刑されるときには「白」じゃなくて、グレーとかかな？

G : 僕が調べた中では、処刑するとき、着物をここで切って・・という絵があったんです。つまり連れて行かれたままの着物で・・。だからここでの白っていうのは特別な意味があるのかな、と。

- C : こどももうちょっと調べなければいけないんだけど、白ってというのはこの時代でいったら「身分の高い人」つまり名主だからということはいえない？
- D : 物語とは関係ないと思うんですが、佐倉惣五郎さんは名主を務めていて、私財を投げ打って農民のために代わりに出したりしていたのを、領主から賞賛されて、名字帯刀をゆるされた、というのがあるので、かなり身分は高かったみたい。
- C : これも宿題にしましょうか。白をどこかの部分に印象づけるために、わざと出しているのか、ということ。
- G : 創作だから、齋藤隆介がそこにすごく印象づけたいものがあったのかな、と。
- C : もう一つ、8ページの所に、処刑されているところに「父ちゃん、と長松がさけぶとひげぼうぼうの父ちゃんが高いところでにこっと笑った。とつてもやさしい目だった。」父ちゃんの処刑されてるときの目がやさしかったっていうのは変でしょ。ちょっとこの目あたり……。これで終わりたいと思うんだけど。自分の子が殺されかけてる、自分も殺されかけてるときに、目がやさしい。ちょっと難しいか。
- G : 殺される覚悟があったことの表れか。
- C : ああ覚悟があった、自分のやることはやったという気持ちがこういう目になったんじゃないかと。
- M : それと関連しているところで、また別の難しいところですが、長松が妹におどけてペロを出す、というところがあって、作者としては同じ様な感覚があって書いてるのかなと思うんですが、資料によると、書いた当時の時代背景として、自民党がこの物語をめちゃめちゃに批判してるんですね。それから齋藤隆介のことも。とにかく、こういう暗いものをのつけるな、と。教科書検定のこと自民党からクレームが付いたことに反論する作者の言葉があって、自民党によると、死をも恐れぬ不敵な人物像を描いているのは小学生には難しすぎるじゃないかと。作者はそれは違うといってるんですが。どういうふうにちがうかという、これはおそらくペロを出したということに関して書いているんですが、父ちゃんのことに関しても同じだと思うんですが、これは単に妹のウメがかわいそうだったからだ、と。おやじさんは一揆を起こしたのではなくて、直訴しただけで、別の説によると、直訴しても罪にならないというのもあるって、実際ははりつけになっただけで、別の説もあるけれど、物語の中では結果として直訴してはりつけになったんだけど、わざとおどけて舌を出したりとかして反権力とかいうことじゃなくて、思わず長松もペロを出しただけだと、作者はそういう意図で、まあ本人が言っているだけで、裏に意図があるのかどうか知りませんが。
- C : ペロを出したこと、やさしい目が、この物語の根本的なところに近づいてると思うんですが……。齋藤隆介のこの作品ではやさしさの追究ではないかと思ってるんですが、ただ一つ私自身、独断で言わせていただくと、やさしさというのは一つ間違ったらすごく怖いことになるぞ、という

のは知っておかなければいけないなど。今日は時間がないのであんまりいえませんが。それからベロを出した、誰のためだっていったら、すぐウメのためってなると思うんですが、そのベロを出したのを見ていた村人、そして役人はどう思ったか、ということをつなげたいと思うんですが。それでは50分約束通りです。

P : この教材に関係ないのですが、昨日8月6日です。私はM県のH市というところに住んでおりますが、8月6日ということで、当時の戦争の悲惨な状態を体験させようということで、すいとんを食べさせた。ところがみんな今の時代の飽食の人たちがおいしいおいしいとって食べたらしいんです。それはなぜかという、あの当時のすいとんに入れた味噌、小麦粉は今と全然違うので、おいしいということになったのです。継承することはいいことですが、ちょうどアメリカがベトナム戦争をやっているときに、飢えている状態を知るということで1日食をぬいて飢えを体験するという、同じ様なことをやってしまうんじゃないかなと思いました。もう一つ、O先生やJ先生も同じだろうと思うんですが、しもやけで膿が出るという原体験があるんです。1944年生まれですから。今の若い先生方はこういう体験がないと思うんですね。そういうものを子どもに教えるときに、われわれはどうしたらいいんだろうかということ、大阪サークルだけでなく、大きな宿題として考えていかなければいけないと思います。

C : ありがとうございます。